

# 建築作品部門

## 低炭素型社会の推進

建築物の低炭素化の推進 低炭素型のライフスタイルの推進  
森林・水・生態系などの自然資源の保全と活用

### もりのいえ

### – Sheltering Earth –

軽井沢の森の中にある、床面積20坪弱の小さな別荘の計画。

地場の自然素材(木と土)と日本の伝統的木造技術を用いながらも、従来にない曲面を用い「大地から生まれ、大地にかえる21世紀の新しい建築」をめざす。

人通りのある北の道路側と西側を閉じ、水路が流れる東南側に大きな開口を取る平面で、断面は地面が盛り上がり、森になじむよう有機的な形状。

構造は日本の伝統的工法の応用による手刻みの木造2階。水平垂直な柱・桁の上に7本の太鼓梁で中央のかぶら束を突き上げ、その上に木造シェルの屋根を母屋で受ける。

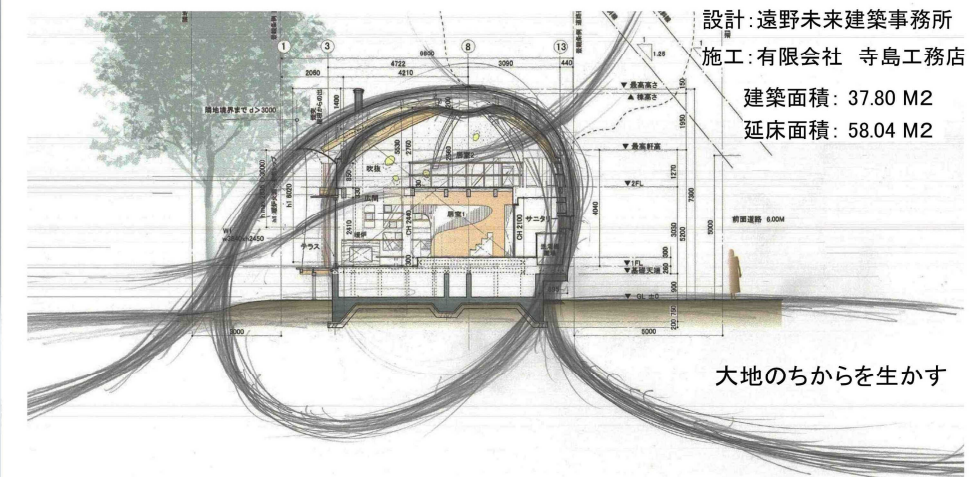
構造と下地材は地元の木(長野県根羽村の松・杉・ヒノキ)を使用。意匠だけでなく、新省エネ基準を満たすよう開口部や仕上げ材の仕様も計画され、内装は蓄熱と調湿を考慮し、長野の土とじっくりで仕上げる。現在工事中で2016年末竣工予定。

設計:遠野未来建築事務所

施工:有限会社 寺島工務店

建築面積: 37.80 M<sup>2</sup>

延床面積: 58.04 M<sup>2</sup>



大地のちからを生かす



2



3



配置図 S=1:1000



応募代表者: **遠野未来**

遠野未来建築事務所

日本建築家協会会員

仙台市出身。1988年早稲田大学建築学科大学院修士課程修了。ビルの中の自宅を改装する過程で土出合い、各地のワークショップで土の建築を学ぶ。

それから15年以上、日本と世界各地で土と左官の建築の設計やワークショップを行っている。

主な受賞: 2016年 国際土建築賞 TERRA Award 優秀賞など。

- 1 地面から盛り上がる屋根と壁。荒い粒子のアスファルトシングルを使い、コケが生えることを期待。
- 2 東南のコーナーは120°の角度で、東側木製引戸は全開放となる。先端の軒の出は約2.8m。伝統工法の応用によるハネ木で支える。
- 3,4 東南に開かれた開口部。南側の開口部の角度は冬の太陽熱取得に最低限有効な真南から30°に設定。
- 5 伝統的木組みの応用。7本の太鼓梁で中央のかぶら束を支え、その上にシェルの屋根を載せる。北側には採光と換気/排煙用のトップライトがある。
- 6 内壁イメージ。有機的曲線の土とじっくりで、太鼓梁や一部柱も現し。暖房は床暖房と共に、現場土版築仕上げの薪による暖炉。